

2023年度 事業報告  
(2023年1月1日～12月31日)

(一社)札幌農学同窓会関西支部

2023年度もコロナ禍の影響が残る環境であったため、2月の通常総会は委任の多い総会となった。6月の第17回市民公開フォーラムはコロナの5類変更にともない、平常対応で開催を行うことができた。10月の秋季講演会は昨年と同様に、関西同窓会総会とのジョイントで開催を行うことができた。

(1)2023年度通常総会の開催

通常総会はコロナ禍影響で直接参加を控える方も多く、会員総数 658 名のところ出席会員 130 名(うち委任状 110 名)となった。  
会場は例年と同じ大阪ガーデンパレスで開催し、本会関西支部細則第9条第4項の定員数の規定を満たし、本会は有効に成立することが出来た。  
第1号議案の事業報告、収支決算報告、監査報告、第2号議案の2023年度の事業計画(案)、収支予算(案)も承認され、滞りなく総会を終えた。

(2)講演会の開催

春季講演会は通常総会の後に山口利昭氏(S39年農経卒・関西支部理事)により「70歳からの創業」のテーマでご講演をいただいた。  
秋季講演会は北大関西同窓会との合同開催により、10月21日(土)ホテル日航大阪にて開催した。演者は北海道大学大学院農学研究院長 教授野口伸氏により「農業の未来を拓く AI×ロボット」のテーマでご講演をいただいた。

(3)第17回市民公開フォーラムの開催

6月17日(土)に堺市立東文化会館で開催した。  
「みんなで目指そう！持続可能な食と環境」のテーマでSDGsを意識した開催とした。主賓挨拶を近畿農政局長の出倉功一氏(S63年農経卒)にいただくことができた。また大阪府、堺市、北海道大阪事務所のご出席もいただく事ができた。  
基調講演は北海道大学農学部農学研究院循環農業システム工学研究室教授岩淵和則氏により「循環が成立する社会の構築」と題し、廃棄物の有用化を基本とした持続可能な農業のモデルをご提示された。

パネルディスカッションでは同窓会本部より松井博和理事長と久田徳二事務局長にコーディネーターをお願いし、生産現場の育種開発、農業生産者および流通関係者から生活者への提案や啓発に関する具体的に持続可能な生産、供給に関するディスカッションをまとめることができた。

参加人数に関しては期待を下回り、特に午前中に開催した第1部食育イベントの集客が極めて少なく、今後の課題として次回以降の見直しが求められた。

(4)同窓会会費の納入促進と新入会員の参加促進

総会、市民公開フォーラム、講演会、懇親会の場や、案内状を送付する機会を利用して、新規会員の勧誘と会費の納入促進を行った。

また若年層や女性会員の参加を積極的に呼びかける努力をしたが、新たな具体策の実行には至らなかった。

(5)本部との連携と大学行事への協力

農学部と札幌農学同窓会で行われる新入会員歓迎会への参加は無かったが、関西支部からは卒業生に対する「はなむけの言葉」を送った。

アルムニレクチャーは関西支部からの講師派遣は本年も中止となった。

北大創基150年記念事業に係る「エルムの森プロジェクト」の一環として北海道ワイン教育センターの開設資金の支援を札幌農学同窓会本部と連携して、寄付金寄贈に加わる事ができた。

以上